



目次

◆事務局からのお知らせなど.....	1
■2025 年度日本野鳥の会中部ブロック会議・富山報告.....	1

■「ウィンターフェア」 連携団体向け卸販売をご利用下さい。.....	3
■会員数.....	3

◆事務局からのお知らせなど

■総務室より

■2025 年度日本野鳥の会中部ブロック会議・富山報告

- 日 程：2025 年 10 月 11 日（土）～12 日（日）
- 場 所：呉羽ハイツ（富山市吉作）
- 担 当：日本野鳥の会富山
- 参加者：48 名（16 支部＋財団）
新潟県、佐渡支部、石川、福井県、甲府支部、富士山麓支部、軽井沢支部、諏訪支部、伊那谷支部、岐阜、沼津支部、静岡支部、遠江、愛知県支部、三重、富山、財団本部
- 記 録：箱田（財団普及室）
- 概 要：

1 日目（11 日）

13:30 開会あいさつ、日程等の説明、議長の選出

- 日本野鳥の会富山 代表 藤島氏
参加費を抑えるために前回実施したライチョウ調査は取りやめた。代わりにライチョウの缶バッジを用意した。
- （公財）日本野鳥の会 常務理事 葉山氏より開会のあいさつがあった。
国際自然保護連合がレッドリスト最新版を公表した。世界の鳥の半分以上が減少している。
日本は幸い 4 種がダウリスト。連携団体の協力を得てさらに自然環境の復元に取り組んでいきたい。
- 議長選出
富山の髙畑事務局長が議長に選出された。議長から、中部ブロック 21 支部中、16 支部が参加し 4 支部から委任状が提出されていることが報告された。

13:45 新潟県におけるトラフズクの繁殖状況報告と中部各県における繁殖・生息状況の情報共有依頼（新潟県 岡田氏）

新潟県内数か所でのトラフズク繁殖の状況について報告された。本来は農耕地で営巢していたが、近年は市街地の公園や学校など人の生活圏内で営巢する事例が出てきている。オオタカやカラスなどの天敵から巣を守るためであろうと思われる。中部ブロックの各県でのトラフズクの繁殖の情報収集についても情報収集を行いたい。アンケートに記入し提出するよう依頼があった。

14:00 「佐渡のトキについて～来年以降の本州での放鳥～」（佐渡支部 土屋氏）

9 月に島内一斉で実施されたトキのねぐら調査では、確認数が昨年の 520 羽から 480 羽に減少した。一昨年までは増加傾向にあったが、環境省によるとテンによる捕食やカメラマンの繁殖妨害が原因とみられる。佐渡では「巣に近づかない」「車から降りない」「畔に入らない」が観察ルールだが、守らない人もいる。撮影写真が入賞し、場所が特定されてさらにカメラマンを呼び寄せる悪循環も生じており、マナーの徹底が求められている。

14:30 「輪島市沖洋上風力に対する輪島市への要望書の提出について」（石川 白川氏）

2024 年元旦の能登半島地震後、舩倉島と七ツ島周辺海域に 53 基 80 万 kW 規模の洋上風力発電計画が報道された。事業主体は輪島市洋上風力誘致検討協議会（会長・輪島市長）。これを受け、財団と連名で環境省と輪島市に要望書を提出し、5 月 26 日に副市長が受理した。

鳥類専門家の参画、生物多様性上重要な地域の回避、回避困難な場合の再検討、カンムリウミスズメ生息地である七ツ島・舩倉島周辺の保全と調和した計画を求めた。

14:45 休憩

15:00 「ブッポウソウ用に設置した巣箱のブッポウソウの初利用について」(石川 増川氏)

中国地方で成功しているブッポウソウの巣箱の架設について、石川でも架設してみた。地元企業の協力を得て、過去にブッポウソウの記録がある場所に万能巣箱を制作し設置した。2019 年から合計 18 か所、加えて来月に 8 か所増設する予定。今シーズンようやくブッポウソウが利用した。巣立ち後巣箱を確認したところ、1 羽のひなが死んでいた。原因として、カメラマンの接近しすぎにより親鳥が放棄したと思われる。

15:15 「舩倉島の復興支援として石川支部に「舩倉島支援窓口」を作ります(石川 白川氏)

2024 年元旦の能登半島地震では舩倉島も甚大な被害を受け、島民 3 名が 14 日後に救出された。1 年近く経つ今も船の転覆やがれきが残る復旧は進んでいない。石川支部では復興支援窓口を設け、民宿再開や補助金申請の支援を行う予定。発電所や浄水器は稼働しているが道路は草に覆われ通行困難なため、来年 4 月に全国からボランティアを募り一斉草刈りを実施する計画である。

15:30 三重県沿岸の島嶼の鳥類生息調査プロジェクト(三重 近藤氏)

三重県沿岸における島嶼地域の鳥類調査プロジェクトを始めた。県のレッドデータブックを作るにあたって、島嶼の鳥類調査の必要性から計画した。調査員は公募ではなく現時点で 11 名を選抜した。調査項目は、生息数、繁殖数、ドブネズミの有無、調査結果は会報で発表する。船のチャーター費用は、会員で出しているが、今後クラウドファンディングなども検討していきたい。今後はカンムリウミスズメ、オオミズナギドリの調査なども実施したい。

15:45 休憩

16:00 湯浅澄孝鳥類標本コレクションについて(富山 高畑氏)

2 日目(12 日)

09:00 シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化について(三重 三曾田氏)

Amazon KDP というサービスを使って標記の本を出版した。このサービスは、自己資金なしで、電子書籍と紙の本を制作し販売することができる。(紙の本は book カバーがつかない) 三重から出版した標記の本は、Amazon 上で 1 日 2~3 冊のペースで売れており、トータルで 780 冊が売れた。今年中に 1000 冊売れる見込み。

データを PDF でアマゾンに送れば印刷、販売はアマゾンがやってくれる。印税は、電子書籍は 33%、紙書籍 60%。在庫のリスク

がなく自己資金なしで出版ができるのが魅力である。

09:15 サシバの繁殖調査について(三重 笹間氏)

前回の中部ブロック会議で提案したサシバ繁殖地調査について、今回は調査方法をまとめ発表した。サシバは無作為に探しても見つからないため、まずグーグルマップで民家のない谷津田を探すとよい。4 月上旬に雄、続いて雌が到着し、5 月営巣、6~7 月に給餌やヒナの姿が見られる。最も見つけやすいのは 4 月の渡来直後。観察結果は配布したエクセルに羽数、成鳥・若鳥、繁殖行動などを記入し、2026 年春までに提出をお願いした。

09:30 サギのコロニーについて(富山 内田氏)

外山城址公園で営巣木を伐採したことによりダイサギが大量死した事案について報告する。もともと近くの神社にあったコロニーが伐採で公園に移り、再び木を切ったことで幼鳥が行き場を失い死亡した。富山市は当初「暑さが原因」と説明したが、支部が経緯や専門家の関与について質問した結果、博物館や動物園などの専門機関は伐採が原因と指摘。7 月 29 日に富山市が謝罪会見を行った。

09:45 富山湾における冬季海鳥調査について(富山 木村氏)

船をチャーターして、ほとんど情報が無い冬季の富山湾の海上に生息する海鳥の調査を行った。富山湾の 3 海域において、2020~2025 年 2~4 月に計 8 回の調査を実施し、ウミスズメ科やアビ科、カモメ科の鳥を確認した。

10:00 休憩

10:15 これからの中部ブロック会議について(沼津 鈴木氏)

中部ブロック会議は、エリアが広くブロック会議の際に移動する労力がばかにならない。小規模な支部が多く高齢化も進んでいることから今後参加支部が減っていくことも懸念される。そこで、会議の開催方法をリアルとオンラインを併用したハイブリッド方式にできないかとの提案があった。必要な機材は財団から借用できるとのことである。議論の結果、次回の甲府支部については持ち帰って検討、再来年の三重はハイブリッドでの開催の方向で検討したいとのことであった。

10:30 モニタリングサイト 1000 のサイトの紹介と調査員募集について(財団 葉山氏)

モニタリングサイト 1000 の調査の概要と調査員としての協力の依頼があった。

10:45 ツバメの見守り、クリーンアップ探鳥会、探鳥会リーダー育成ワーキンググループの報

告（財団 箱田氏）

まず、今年度の「ツバメの見守り感謝状贈呈事業」の報告と「クリーンアップ探鳥会の開催」の呼びかけについて配布資料を基に説明された。

次に、探鳥会リーダー育成ワーキンググループの報告とワーキンググループが作成しているテキストの概要について報告された。

- 11:15 ・閉会挨拶 日本野鳥の会富山 代表藤島氏
ブロック会議を通じて、リアルでのコミュニケーションは大事であるとますます感じた。遠路はるばる来ていただいてありがとうございました。
・次回開催幹事支部（甲府支部）からのご案内

今回のブロック会議は2026年5月30～31日、会場は北口本宮富士浅間神社近くの研修センターで開催する。オンラインについては持ち帰って検討するが難しいかもしれない。

11:30 終了

（普及室／箱田敦只）

■普及室より

■「ウィンターフェア」 連携団体向け卸販売をご利用下さい。

会誌「野鳥」11・12月号に、「ウィンターフェア2025」の通販カタログを同封いたしました。

双眼鏡や望遠鏡の割引販売や、防寒具など冬のおすすめ商品を取りそろえたカタログです。

事業担当の皆様には、当フェアの連携団体向け卸販売のご案内、価格表を別途お送りしました。探鳥会やイベント等で会員や参加者の皆様にご案内いただければ、卸価格で販売させていただきます。商品を通じたコミュニケーション、支援者の輪の拡大にぜひご活用ください。



ご不明点はお気軽にお問合せ下さい。

-支部卸販売のご注文、お問い合わせ-

普及室 販売出版グループ

TEL: 03-5436-2626

FAX: 03-5436-2635

Email: r-hanbai@wbsj.org

（普及室／森谷 机珠瑠）

■総務室より

■会員数

12月1日時点の会員数は32,990人で、先月と比べ26人減少しました。

11月の入会・退会者数（表1）をみますと、入会者数は退会者数より12人少なくなっています。

11月1日付の入会者数は137人で、前年同月の入会者数147人と比べ10人減少しました。

また、11月末日付の退会者数は149人で、前年同月の退会者数175人と比べ26人減少しました。

なお、会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

表1. 11月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	7 人	11 人
総合会員（おおぞら会員）	24 人	35 人
本部型会員（青い鳥会員）	10 人	15 人
支部型会員（赤い鳥会員）	66 人	63 人
家族会員	30 人	25 人
合計	137 人	149 人
年度累計	1,354 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

※上記集計は速報値になります。

●都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表2. 都道府県別の会員数（12月1日時点）

都道府県	会員数	対前月差
北海道	1,588 人	-2 人
青森県	207 人	0 人
岩手県	322 人	-1 人
宮城県	533 人	-4 人
秋田県	227 人	0 人
山形県	217 人	2 人
福島県	498 人	-1 人
茨城県	825 人	-3 人
栃木県	812 人	-4 人
群馬県	599 人	-1 人
埼玉県	1,899 人	-1 人
千葉県	1,440 人	1 人
東京都	4,716 人	5 人
神奈川県	3,011 人	-7 人
新潟県	333 人	1 人
富山県	184 人	0 人
石川県	263 人	-6 人
福井県	225 人	0 人
山梨県	239 人	-1 人

長野県	821 人	-2 人	宮城県支部	496 人	-4 人
岐阜県	461 人	2 人	ふくしま	127 人	1 人
静岡県	1,180 人	-1 人	郡山支部	143 人	0 人
愛知県	1,599 人	0 人	白河支部	17 人	0 人
三重県	460 人	0 人	会津支部	52 人	-1 人
滋賀県	326 人	3 人	奥会津連合	5 人	-2 人
京都府	807 人	0 人	いわき支部	86 人	-1 人
大阪府	1,850 人	-6 人	福島県相双支部	16 人	0 人
兵庫県	1,204 人	8 人	南相馬	18 人	0 人
奈良県	465 人	0 人	茨城県	740 人	-1 人
和歌山県	192 人	0 人	栃木県支部	819 人	-6 人
鳥取県	220 人	-2 人	群馬	537 人	0 人
島根県	187 人	0 人	吾妻	46 人	0 人
岡山県	525 人	0 人	埼玉	1,430 人	-1 人
広島県	543 人	-5 人	千葉県	856 人	-3 人
山口県	283 人	0 人	東京	2,680 人	-1 人
徳島県	319 人	-2 人	奥多摩支部	751 人	3 人
香川県	208 人	1 人	神奈川支部	1,887 人	-3 人
愛媛県	325 人	-1 人	新潟県	257 人	0 人
高知県	100 人	0 人	佐渡支部	43 人	2 人
福岡県	1,114 人	3 人	富山	167 人	1 人
佐賀県	222 人	1 人	石川	243 人	-6 人
長崎県	205 人	0 人	福井県	214 人	0 人
熊本県	357 人	6 人	長野支部	379 人	0 人
大分県	218 人	-3 人	軽井沢支部	163 人	0 人
宮崎県	242 人	3 人	諏訪支部	234 人	-1 人
鹿児島県	298 人	-4 人	木曽支部	18 人	0 人
沖縄県	68 人	0 人	伊那谷支部	70 人	-1 人
海外	16 人	0 人	甲府支部	174 人	-2 人
不明	37 人	-5 人	富士山麓支部	41 人	-1 人
全国	32,990 人	-26 人	東富士	55 人	0 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数（12月1日時点）

支部	会員数	対前月差
オホーツク支部	236 人	-4 人
根室支部	74 人	4 人
釧路支部	133 人	0 人
十勝支部	193 人	1 人
旭川支部	105 人	1 人
滝川支部	35 人	0 人
道北支部	55 人	0 人
札幌支部	298 人	0 人
小樽支部	47 人	0 人
苫小牧支部	166 人	-1 人
室蘭支部	114 人	-1 人
道南檜山	73 人	1 人
青森県支部	108 人	-1 人
弘前支部	114 人	1 人
秋田県支部	216 人	0 人
山形県支部	205 人	5 人
宮古支部	72 人	0 人
もりおか	140 人	-2 人
北上支部	84 人	0 人

沼津支部	131 人	-1 人
南富士支部	220 人	-1 人
南伊豆	34 人	0 人
静岡支部	300 人	3 人
遠江	337 人	-1 人
愛知県支部	1,258 人	2 人
岐阜	430 人	2 人
三重	407 人	-2 人
奈良支部	396 人	1 人
和歌山県支部	197 人	0 人
滋賀	333 人	2 人
京都支部	780 人	1 人
大阪支部	1,695 人	-8 人
ひょうご	918 人	4 人
鳥取県支部	238 人	-2 人
島根県支部	190 人	2 人
岡山県支部	508 人	2 人
広島県支部	470 人	-6 人
山口県支部	258 人	0 人
香川県支部	171 人	1 人
徳島県支部	338 人	-2 人
高知支部	90 人	0 人
愛媛	306 人	-2 人

北九州支部	229 人	1 人
福岡支部	512 人	1 人
筑豊支部	203 人	0 人
筑後支部	131 人	1 人
佐賀県支部	292 人	0 人
長崎県支部	181 人	-1 人
熊本県支部	348 人	3 人
大分県支部	206 人	-3 人
宮崎県支部	237 人	2 人
かごしま県支部	277 人	-2 人
やんばる支部	37 人	0 人
西表支部	56 人	1 人
	27,946 人	-25 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。
これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（総務室／鈴木風香）

◆支部ネット担当より

いつも支部ネット通信をご愛読いただきありがとうございます。

早いもので 2025 年も残すところわずかとなりました。今年 1 年、お世話になり、ありがとうございました。来年が皆様にとって良い年となりますよう祈念いたしております。また、野鳥をはじめとする自然環境にとっても、良い流れ、良い風が吹く年となることを願っております。

どうぞ良い年をお迎えください。

支部ネット通信では、連携団体やブロックから全国の連携団体へ発信したい情報をご投稿いただき掲載することが可能です。投稿にあたって特に字数の制限などは設けていません。原稿は毎月 5 日頃が締め切り、25 日頃発行となります。ご投稿は下記アドレスまでお送りください。

次号もどうぞよろしくお願いいたします。

日本野鳥の会

支部ネット通信

2025 年 12 月号・通巻 287 号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2025 年 12 月 23 日

◆担当

総務室 総務管理グループ

五十嵐真/松井華奈/深谷静流/原元奈津子/萩原洋平
〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : sibu-net@wbsj.org